

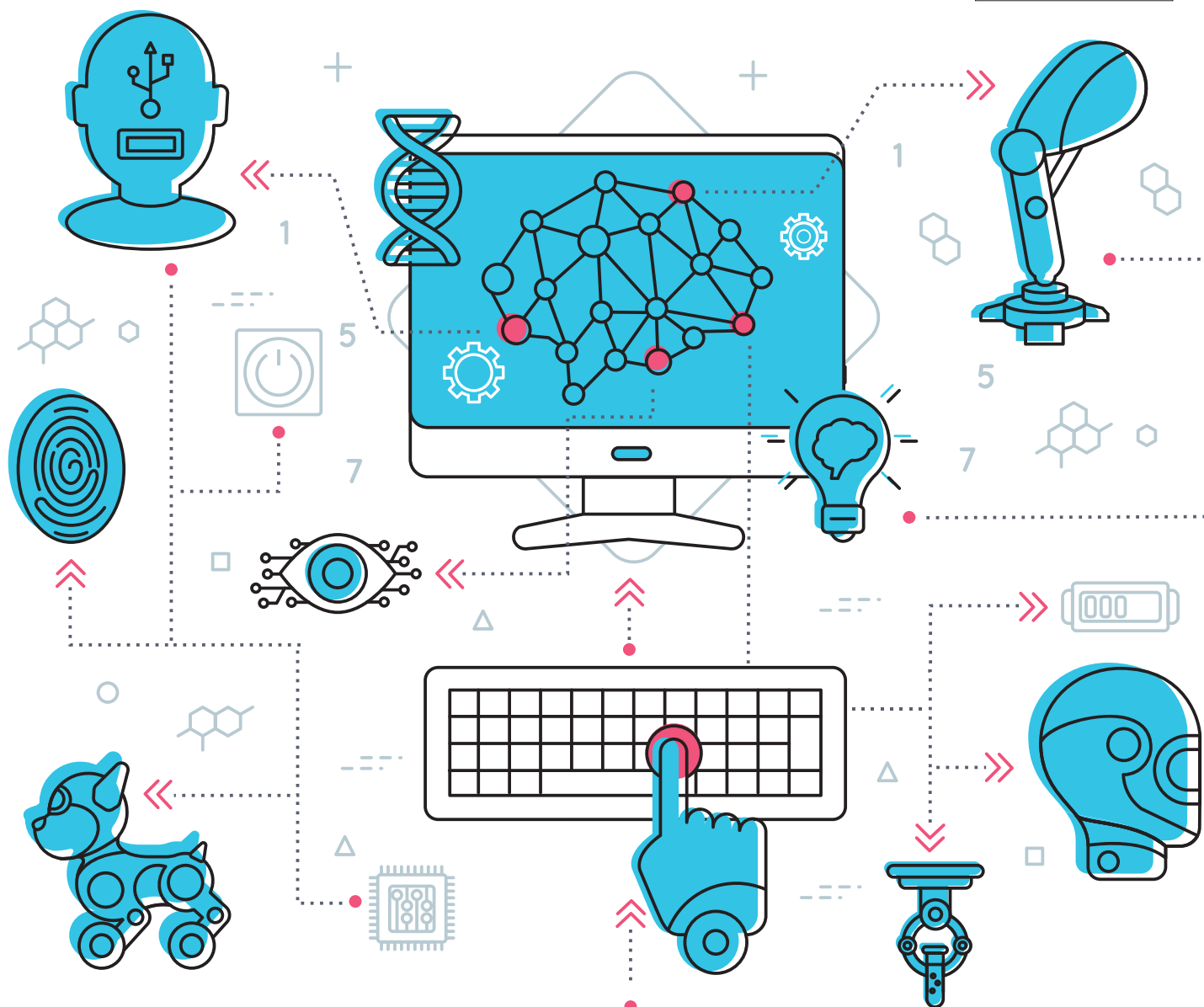
sMedio REPORT

Vol. **6**

第11期 株主通信 2017.1.1 → 2017.12.31

sMedio

証券コード:3913



ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご支援ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は、「デジタルトランスフォーメーションを加速する。(ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面で良い方向に変化させる)」をミッションに掲げ、社業の発展に邁進しております。

2017年12月期につきましては、パソコンやデジタル家電分野からのロイヤリティ収入および開発収入が予想を下回り、減収となる中、将来に向け、新規事業への投資を継続したことなどで、141百万円の赤字を計上いたしました。

当社の課題は、低迷するロイヤリティ収入のテコ入れと、新たな成長エンジンとなる事業の立ち上げ・育成であります。

ロイヤリティ収入につきましては、2018年12月1日開始予定の新4K/8K衛星放送を大きな商機と捉え、組込みブラウザ[tourbillon]シリーズと新4K/8K衛星放送録画番組の再生プレイヤーの開発を進めながら、営業活動を活発化させております。

新たな成長エンジンにつきましては、2017年11月から12月にかけて発表いたしました「顔認識・表情認識AIエンジン」、書店向けマーケティング・プロモーション施策の共同開発およびIoTプラットフォームのスマートホームソリューションへの提供といった形で着実に実績が出てきており、より一層、強化していきます。

当社グループは、顧客をはじめ、ステークホルダーの皆様と価値を共有しながら、社会から必要とされる企業グループであり続けるため、果敢に挑戦し、自らも進化を続けていきます。

2018年12月期は、黒字転換を図り、成長・発展の基礎を固める1年としたいと考えており、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 **岩本 定則**

About sMedio

社会に貢献できる豊かなマルチメディアライフを目指して

当社は、スピーディーに (Speed)、世界市場に向けて (Sphere)、ソフトウェア (Software) 製品とサービスを提供するソフトウェア開発、サービス提供会社です。

当社は2007年の設立以来、マルチメディア、無線接続技術関連ソフトウェアの開発力で高い評価を獲得しています。

近年、当社は「デジタルトランスフォーメーションの加速」をミッションとして掲げ、AI(人工知能)による映像解析、IoTプラットフォーム製品、セキュリティ関連技術に事業分野を広げ、ソフトウェアによる新たな価値の創造に取り組んでいます。

sMedioの
強み

1

Media
処理技術

2

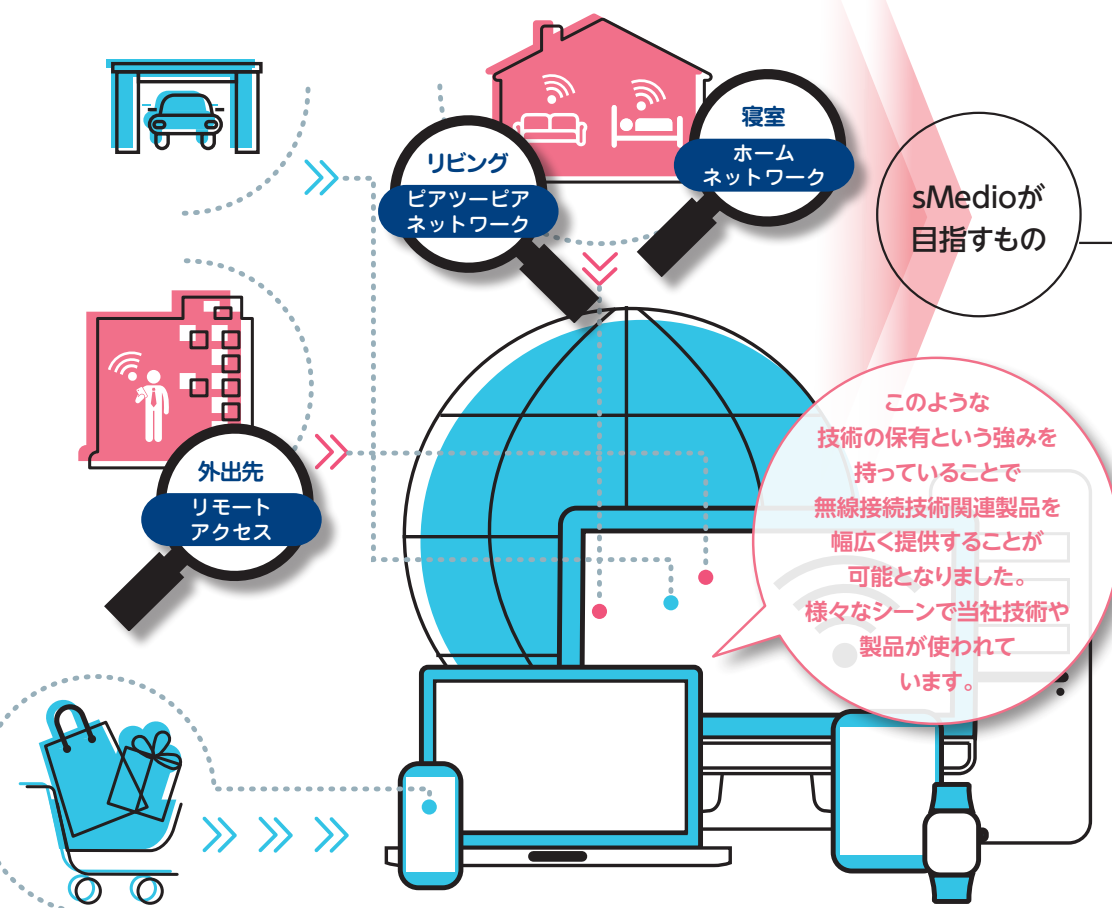
無線通信
技術

3

著作権保護/
認証技術

新製品を開発・製品化するための全ての要素技術を習得しており、マルチOS・マルチデバイスに対応できることが当社の強みでもあり、他社にマネのできない先端的な製品開発の源泉となっています。

無線接続技術関連製品を使うとこのようなことが可能になります。





当社グループについて

当社グループをもっと知っていただくために、株主の皆さまの疑問にお答えします。

放送の高度化、IoT、AI…技術



新4K/8K衛星放送開始が大きな商機となるのはなぜでしょうか。

A. 放送・通信業界では、様々な規格が定められることが多く、ソフトウェア開発は、その規格に沿って行われることになります。

規格の改定・新設があると、そこに関連するソフトウェア開発の需要が高まります。デジタル放送の高度化とハイブリッド放送を見据えて、放送業界では規格の改定・新設が行われる予定です。

このうち、2018年12月開始予定の新4K/8K衛星放送向け録画用Blu-ray規格が完成し、発表されています。2018年は、関連する分野でのソフトウェア開発需要が高まり、当社が従来得意としてきたBlu-ray関連ソフト

ウェアの組み込み開発力を活かし、事業の拡大を図る考えであります。

デジタル放送の高度化とハイブリッド放送は、ブラウザ(画面)の表示に関しても影響を与え、この分野の開発需要には、(株)ミックステクノロジーズ(2018年1月に当社と吸収合併し、消滅)が保有していたブラウザ技術を活用し、事業の拡大を図る考えであります。

映像の視聴(受信したデータを表示するブラウザ)、録画、再生といった利用シーンをカバーしていることから、2018年から2020年にかけては、当社ソフトウェア搭載製品を増やす好機であると考えています。



国内放送波の高度化ロードマップと国内TV出荷台数予測

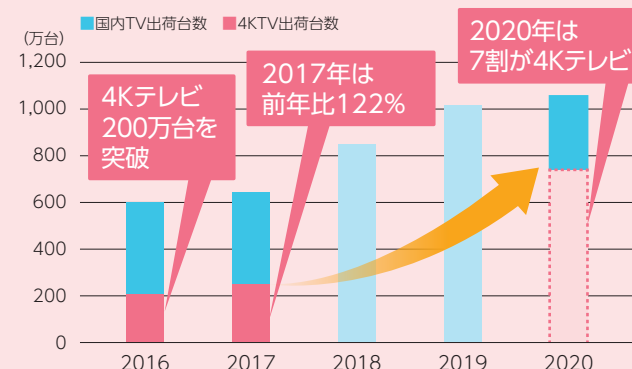
すでに一部で実用放送されている4Kは、2018年には放送局・番組がさらに拡大します。それに応じて4Kテレビも出荷台数を着々と伸ばしており、2020年には出荷台数の7割が4Kテレビとなる見込みです。

4K/8K推進のためのロードマップ

4K/8K	~2017	2018	2019	2020
BS		4K/8K 実用放送		
衛星		4K 実用放送		
110度CS				
124/128度CS				
ケーブル	4K 実用放送			
IPTV				
2K				
地上波			2K継続	

4K・8K放送の推進 総務省

国内TV出荷台数予測



2016/06/14 一般社団法人 電子情報技術産業協会

用語解説

プラットフォーム コンピュータにおいて、ソフトウェアが動作するための環境。
デジタルサイネージ 表示内容を切り替えたり、動画を表示したりできる装置のことで、日本語では、電子看板となる。
ディープラーニング コンピュータによる機械学習であり、人間の脳神経回路を模したネットワークを活用した技術。
クライアント機器 他のコンピュータやソフトウェアから提供を受けた機能や情報を利用する機器。

革新に、当社のソリューション

Q.2

» sMedio Smart Solutionsの目指しているものは何でしょうか。

A. AI(人工知能)、4K、5G(第5世代移動通信システム)など、最新のテクノロジーが急速に進化する中、現在の市場において競争力のある製品を開発するには、各種技術を連携させ、新たな価値を生み出していくことが必要となっています。

当社では、研究開発を進めていたAIによる映像解析技術、IoT統合プラットフォームなどの製品の準備が整い、市場への導入を開始しています。

さらに子会社、パートナー企業によるコア技術・製品群が加わることで、新技術と既存技術を組み合わせ、複雑化する市場のニーズにいち早く応えることが可能になりました。

例えば、「顔認識によるマーケティング分析が可能な、4K対応デジタルサイネージ」といった、複合的なソリューションを素早く提供することができます。

当社は、これらの製品群を「sMedio Smart Solutions」としてソリューションの再定義を行いました。

「sMedio Smart Solutions」は、従来の「sMedio IoT Solutions」に、デジタルサイネージやAI技術を組み合わせ、より幅広いソリューション提供を可能とするものになります。

「sMedio Smart Solutions」は、デジタルトランスフォーメーションをより一層加速させることを目指しています。

PICK UP

sMedio Smart Solutionsにデジタルトランスフォーメーションの実現

メディア処理技術や無線接続技術を使った従来の「sMedio IoT Solutions」に、デジタルサイネージやAI技術を組み合わせた「sMedio Smart Solutions」で、より複合的で高度なソリューションを提供します。

sMedio IoT Solutions

技術の集積

- 無線技術 ●サーバー構築技術
- メディア処理技術
- PCモバイル技術

スマートフォン
画像解析



VLOG
ホーム IoT
統合プラットフォーム

VLOG

acer
Being Signage

スマート
デジタル
サイネージ

位置情報
ソリューション

Tao software

sMedio Smart Solutions

技術の集積

- AI技術 ●5G技術 ●高解像度画像処理技術

AI
テクノロジーズ
sMedio

が新たな価値を創出

Q.3

sMedio AI Technologiesの目指しているものは
何でしょうか。

A. 当社のAI製品は、当社が得意領域としている画像解析をベースにした**ディープラーニング**を活用した認識技術になります。

特に、人間の「顔の識別」エンジンを始めとする、顔の「表情」、「年齢」、「性別」の識別エンジン、人間の「動き」やその「動きのトラッキング」、また、モノに着目した認識エンジン開発に着手しております。

当社のAI製品は、クラウドからスマートフォンなどの**クライアント機器**までの色々なプラットフォームに対応しており、昨今、「モノのAI化」が進む中、いち早く、モノにAIエンジンを組み込むことを可能にしました。

従来、無機質な「機材」でしかなかったモノが感情豊

かに人間と接することができる知性的なモノに生まれ変わります。

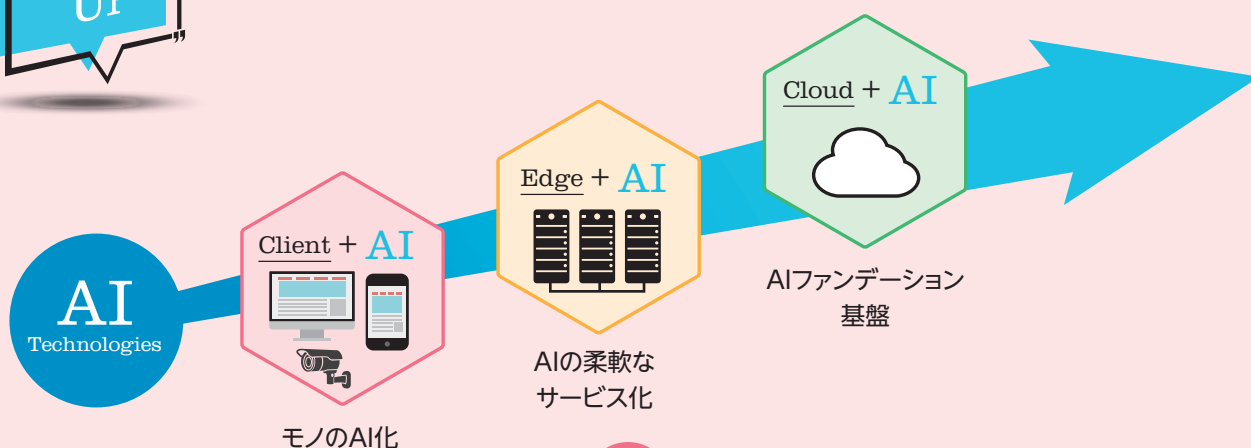
当社のAI製品・技術を用いた事例を挙げますと、

- ・株式会社トーハンと書店店頭用デジタルサイネージシステム「AI書店員」の共同開発
- ・富士通株式会社のロボットAIプラットフォームの顔認識エンジンでの採用

「sMedio AI Technologies」は、モノのAI化を、色々なプラットフォームで実現することを目指し、クラウドやクライアント機器単独では実現が困難な問題を解決し、AIが生活に利用される環境構築の実現に貢献することを目指しています。

PICK UP

sMedio AI Technologiesの特長と事例



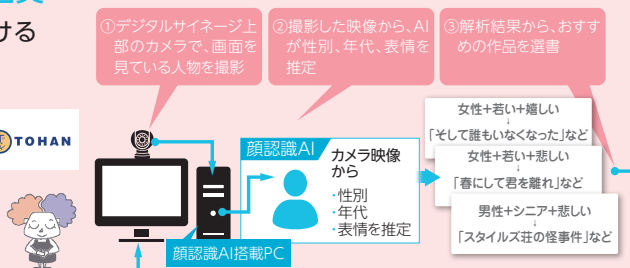
事例

トーハン様 AI書店員

本のリアル店舗におけるプロモーション

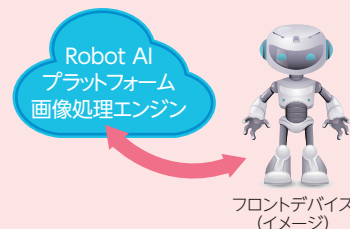


AI書店員

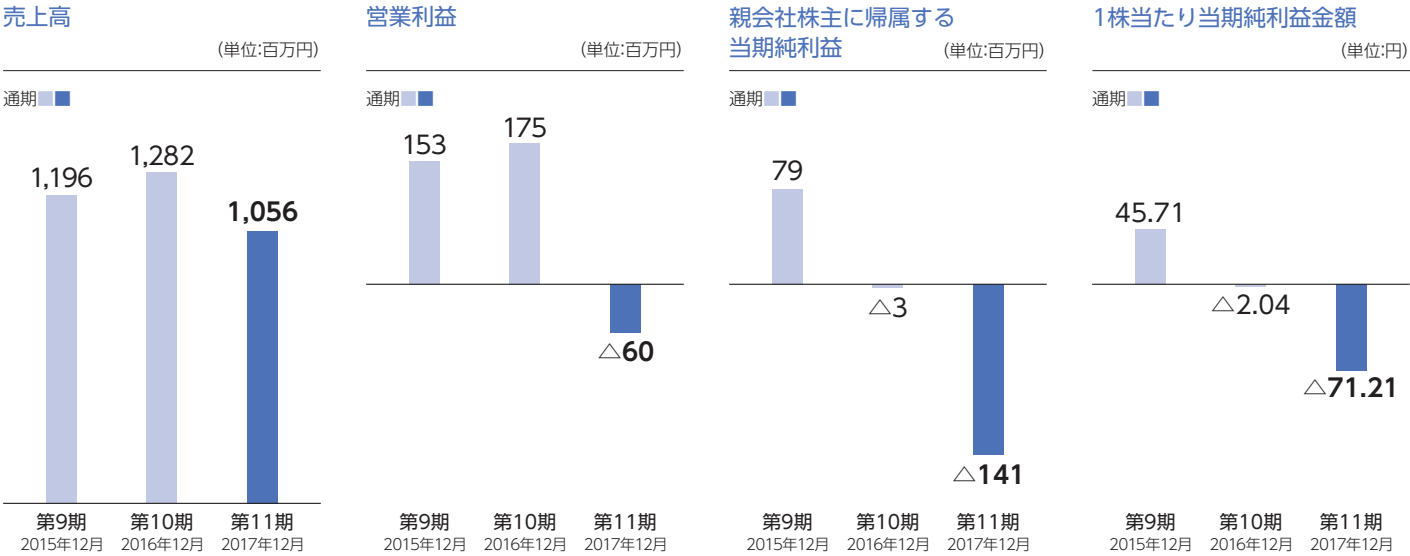


富士通様

Robotプラットフォーム



連結業績ハイライト



株主インフォメーション

会社の概要 (2017年12月31日現在)

社名	株式会社sMedio
本社所在地	〒104-0033 東京都中央区新川2-3-1 セントラルスクエア8階
設立	2007年3月16日
資本金	5億708万円
従業員数	60名 (役員含まず、子会社従業員含む)
役員	代表取締役社長 岩本 定則 取締役 中村 嘉伸 取締役 黄 七零 取締役 北埜 弘剛 取締役 (独立社外) 落合 洋司 監査役 (常勤) (独立社外) 石津 健鳳 監査役 渡邊 雅文 監査役 (独立社外) 本郷 喜千
関連子会社等	sMedio, Inc. Taipei Branch (台湾支店) *1 sMedio Technology (Shanghai) Inc. (中国) sMedio America Inc. (米国) 株式会社情報スペース タオソフトウェア株式会社 株式会社ミックステクノロジーズ*2

*1 2018年2月14日付で営業を終えております。
*2 2018年1月1日付で当社と吸収合併しております。

株式の状況 (2017年12月31日現在)

発行可能株式総数	6,000,000株
発行済株式の総数	2,029,521株
	(うち自己株式 125,092株)
株主数	1,816名

株式会社sMedio

<http://www.smedio.co.jp>

株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後3ヶ月以内
配当支払株主確定日	12月31日 (期末配当) 6月30日 (中間配当)
1単元の株式数	100株
証券コード	3913
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 ※株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関の 事務拠点の移転に伴い、2017年8月14日付にて 上記の通り変更しております。
公告掲載方法	電子公告により行う。やむを得ない事由 により電子公告によることができない 場合は日本経済新聞に掲載する方法に より行う。

IRカレンダー		
2018年	4月	
	5月	●第1四半期決算発表
	6月	
	7月	
	8月	●第2四半期決算発表
	9月	
	10月	
2019年	11月	●第3四半期決算発表
	12月	
	1月	
	2月	●決算発表
	3月	●定時株主総会



環境に配慮したFSC®認証紙と
植物油インキを使用しています。